

「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員長

堀田 力



「未来を築く子育てプロジェクト」

の第一回入賞者が決まりました。募集した三部門それぞれに頑張っている皆さんの姿が目につかびました。しかしながら、日本全体で見れば、もっともっと支援の輪が広がらなければならないと改めて感じています。今回入賞の作品・活動は、各選考委員のあたたかく、鋭い意見交換を通じて選ばれた素晴らしいものです。これらの作品・活動が、多くの人の共感を呼び、子育て支援が多様な形で広がり、社会に根付くことを願っています。

「(財)さわやか福祉財団理事長、弁護士」

「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員

横山 進一



私たち住友生命が二〇〇七年に創業百周年を迎えたことを機に、日本が直面する少子化社会への貢献を目指して、実行委員の皆様とともにプロジェクトをスタートいたしました。多くのご応募をいただき、子育てへの関心の高さを感じることができました。住友生命では、夢のある未来づくりに向けて、子育て活動に関わる皆様をこれからも応援してまいります。来年度もたくさんのご応募とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

「住友生命保険相互会社取締役会長」

目次

ご挨拶 1

講評 2

エッセイ・コンクール 3

子育て支援活動の表彰 9

女性研究者への支援 15

第一回「未来を築く子育てプロジェクト」表彰式 17

募集結果

「未来を築く子育てプロジェクト」では、「エッセイ・コンクール」、「子育て支援活動の表彰」、「女性研究者への支援」の3部門それぞれについて、2007年6月20日から9月30日までの間、募集をいたしました。

その結果、「エッセイ・コンクール」には**1,157編**、「子育て支援活動の表彰」には**170団体**、「女性研究者への支援」には**134通**の応募がありました。

12月初旬に開かれた実行委員会で最終選考が行われ、ここにご紹介するみなさんが、2月18日に行われた表彰式で、それぞれ受賞されました。選考につきましては、実行委員の皆様のご講評をご覧ください。

	応募数	表彰
エッセイ・コンクール	1,157	厚生労働大臣賞／最優秀賞から1点 最優秀賞／5点 優秀賞／20点
子育て支援活動の表彰	170	厚生労働大臣賞／未来大賞に授与 未来大賞／未来賞から1組 未来賞／6組
女性研究者への支援	134	スミセイ女性研究者支援／10名

池田 守男

応募された作品や活動などを拝見し、育児も教育も、もつと「地域ぐるみ」社会総がかりの視点と実践が必要であることを強く感じさせられております。

一方で、地域に密着し、熱意をもって子育て支援活動に携わっているたくさんの方々がいることを知り、意を強くするとともに、頭の下がる思いでした。ロールモデルとなるこのような活動が、より多くの皆さんに認知され、全国的に広がり、定着していくことを期待しています。



【株式会社資生堂相談役】

大日向 雅美

「女性研究者への支援」に応募された一三四通からは、子育てや家族を大切にしつつ、研究者としての関心に突き動かされ、真理の探究を目指す情熱が伝わってきました。同時に、



女性は家族の都合に左右され、研究生活に集中できない環境に今なお置かれていることが少なくないことを残念に思います。本企画は、直ちに研究成果が現れるとは限らない社会科学系や人文科学系の研究に携わる女性にとつて、貴重な光となるものと考えます。支援を受けられた皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

【恵泉女学園大学大学院教授】

奥山 千鶴子

「子育て支援活動の表彰」は、応募総数一七〇件の中、難しい選考となり、予定より多い六つの活動を選びました。いずれも地域の資源（ひと・もの・場所）や、本人の専門性を活かした活動となっております。子育てを家族だけでなく地域で支える多くのアイディアに、大変共感と期待を持てる選考結果となりました。「これなら私たちにもできるかもしれない」と感じていただけの活動ばかりだと思いますので、ぜひ全国に広がってほしいと思います。



【特定非営利活動法人びーのびーの理事長】

金田一 秀穂

「エッセイ・コンクール」には一一五七編というたくさんのご応募を頂きました。一口に子育てがテーマといっても、試行錯誤で子どもに向き合っているもの、ユニークな子育てを実践しているものなどさまざまでした。その中で、「育児じゃなくて：育自！」は、若い女性が一生懸命子育てに取り組む姿が鮮やかに描かれており、子育ての魅力がストレートに伝わる作品だと思えます。プロジェクトを通じて、子育てのすばらしさを感じていただければ幸いです。



【杏林大学外国語学部教授】

吉永 みち子

子育ては基本的に母親の役目という意識が、若い世代にも思った以上に染み込んでいることに驚きました。母親が気持ち前向きに育児の大変さを乗り越えたり、様々な支援を求めつつ、健気に取り組んでいる事例が大半で父親の姿がほとんど見えない。未来の子育ては、もつと男女が協力しあって子供の成長を支える姿であってほしい。これが現在の姿だとしたら、この第一歩から新しいカタチが育っていくのを楽しみに見守りたいと思います。



【作家】

育児じゃなくて……育自！

初めての出産だった。病院は居心地がいい。まわりもみんなママで、助産師さんはベテラン応援団。お見舞い客はみんな優しい。

帰宅してからだ。子育てって大変って聞いていたけど、大変じゃなくて孤独、そう感じたのは。

銀行にいかなくちや。買い物にいかなくちや。市役所にいかなくちや。

よし！がんばって用意して、赤ちゃん大丈夫かな？ってドキドキして、やっとたどり着いた。着いてすぐ、知らない人に『あんな小さいのに連れてきて』って言われた。私に聞こえる声で。

涙がでそうだった。じゃあ、どうすればいいのよ。でも言い返すエネルギーはない。

帰りのバス。ノンストップじゃない。ベビーカー上げるのに時間がかかっちゃった。みんなの目。はやくしろーっ。ああ、そうか。手伝わってなかなか勇気があるものね。時間にゆとり、ないのね。

まだあった。独身の友達たちがお祝いに来てくれた。でも、お茶いれようとしたら泣く。話を聞こうとしたら泣く。いままでのようにおもてなしできないの。『ごめんね、バタバタで。』と言うと、『大変ね！、やっぱり赤ちゃんはかわいいけど、私はまだいらないわー。やりたいことでできないし。』



中村 佑美 【大阪府】

嫌味を言われているわけじゃない。けど、なんだかひとり、寂しく感じた。

私の赤ちゃん、かわいいし、邪魔に感じたことなんてない。でも世間のみんなが、冷たく接してくるの。何をするのも大変。出産を機に仕事をやめて、毎日お世話で、生活が大変になった。疲れちゃったな……

そんなとき、病院のマタニティヨガに講師で来ていた方が『育児はね、育自。自分を育てるのよ。赤ちゃんを社会に出すために自分を育ててね。やっぱりママはしっかり生きていかなくちや。』って、話してくれた。

ああ、みんな同じなんだ。ここにいるママさんみんな何かに不安で、辛かったのかな。がんばらなくていいし、色んな嫌なことあるけど、私の赤ちゃん元気だし、かわいいし、それで充分。そう感じた。

心からそう感じた後、まわりをみると、優しい人はいっぱいいた。

バスも乗るとき手伝わってくれた。なんとおばあちゃんか。

銀行の窓口の人も笑顔で可愛いつて言ってくれたし。それに、友達が手作りのおもちやをくれた。

なんだ、自分が暗く考えたり、落ち込んでただけみたい。やっぱり人に優しくできる人はステキだな。これから育児、いや、育自！がんばろっつ。

【受賞のことば】

このたびは大変すばらしい賞を頂き、本当にありがとうございます。育児をしている上で悩んだ事、感じた事、そして喜びをそのまま表現しました。その文が表彰されることになり、うれしい思いでいっぱいです。これからも笑顔いっぱい楽しい『育自』を続けていこうと思います。

ゼーんぶ親が先や

有田 英樹 【大分県】

「鶏が先か、卵が先か」・・・。
結論がでない堂々巡りのこの問
い。でも、僕は答えを知っている
んです。

あれは、娘が入学ほやほや、小
学校一年生の時でした。言葉に興
味を覚え始めた娘は、なぞなぞが
大好きになっていました。

そこで、僕は、娘にこう聞いてみたのです。

「あのさ、おもしろいなぞなぞ、教えてあげようか？」

娘は大きくうなずきました。

「鶏と卵、どっちが先にこの世の中に現れたと思う？」

「えっ？ どういうこと？」

今度はきよとんです。僕は、鼻を膨らませて続けます。

「もし、卵が先だとすると、その卵は何から産まれたの
かってことになるやろ。もし、鶏が先だとすると、その
鶏はもともと卵の中にいたはずで、おかしいやろ。だか
ら、神様はどっちを先に作ったか誰もわかんない。答え
がでない問題だろ。」

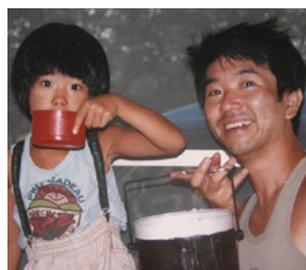
「なあんだ、そういう意味か・・・。」

娘は空を見上げて考えました。そして声を上げました。

「わかった！」

娘の答えは、他の眼から見れば、他愛のないものだっ
たでしょう。でも、僕にとつて、それは、目からうろこ
の答えだったのです。

「最初は、絶対に、ニワトリや。」



「ふうん、なんで、そんなふうに思うん？」

「ニワトリがおらんやったら、卵からかえったヒヨコのお世
話は誰がするん？」

「えっ。」

「そうやん。エサをあげたり、羽をそろえたり、ワシから守
ったり、誰がするん？」

「あっ・・・。」

僕はその先の言葉を失いました。

「そうやろ。もし卵が最初やったら、ヒヨコがニワトリにな
る前に死んでしまうやん。」

娘は目をきらきらさせて続けました。

「だから、なんでもいっしょや、親がゼーんぶ最初や。」

僕は、いろんな場面で子どもに期待してしまう親でした。
明るい子でいてほしい。素直でいてほしい。伸び伸びしてい
てほしい。期待することの善し悪しや、意識的か無意識かも
別にして、たくさん期待を、僕はしていたと思うんです。
でもその前に、親は子どもから期待されている。そんな当た
り前のことを、思いもしない僕だったんです。

「親がゼーんぶ最初や。」と言った娘。

こうして僕の中で『鶏卵の問い』は終止符をうち、少しだ
け、それまでと違った親になれた気がします。

【受賞のことば】

本編主人公の娘がお祝いをくれました。「お父さん、おめでとう。鶏も飛べるんだ
と、少し前に知りました。まだ私も弟も羽ばたきの練習中だけど、いつかきつと立派
に空を舞って見せましようぞ。連日の生憎気、許してね。たくさん、ありがと。」
涙が出ました。

独りじやない子育て

河村 理江子 【大阪府】

我が家には七歳の娘と二歳の息子がいます。事情があつて、それぞれの出産の際には私は里帰りをしませんでした。



上の子の出産の後、退院と同時に主人と私、娘の三人での生活がスタート。家事も育児も協力的な主人なのでなんとか乗り越えることが出来ました。娘はほとんど寝ないし、よく泣くし、とにかく当時の私には「手のかかる子」でした。それは自分達で全てを背負い込み、余裕のない子育て状態に陥つていて、娘はそんな私達の心の内を敏感に感じ取り、神経質になっていたのでかもしれないと、今なら素直に認めることが出来ません。

ようやく娘が幼稚園に入園し、下の子を授かることが出来ました。やはり出産後のことが気がかりで仕方ありませんでした。しかし、そんな時、なんとご近所の幼稚園ママ達が、里帰りできない私達家族の為に役割分担をしてくれ、私達の生活が落ち着くまでの間、ありとあらゆることをサポートしてくれたのです。

入院中は娘の送り迎えや、主人が帰るまで預かってくれ、晩ご飯やお風呂も済ませて後は寝るだけの状態にしていくれた友達。退院後、幼稚園の送迎や、帰宅後に夕方まで預かって、娘が寂しくないように遊ばせてくれた友達。買物や「たくさん作ったから食べて」とご飯を持って来てくれた友達。まるでドラマでも見ているかのような素晴らしい連携で、本当に涙が止まらないくらい嬉しく、心

も体も癒され助けられた日々でした。

また、「直接何かを手伝うことは出来ないけど…」と励ましや心配のメールや電話をくれる友達もいました。実際に手伝ってもらったことはもちろんのこと、皆のそういう配慮が大変嬉しく、また驚きでもありました。

おかげで精神的に落ち着いて日々過ごせた娘は、赤ちゃんだっぶりの愛情を示すゆとりも持てました。

娘の時は「自分の子なんだから、何でも自分でしなくっちゃ」と意気込んで、強がつて、誰かに手伝ってもらうことが出来なかつた私。その頑張りの悲鳴が子育てへの不安につながつたのも事実です。今回、無理するよりも「お願い」と求めることの重要性も実感しました。せつかくサポートしてくれようとしても、当の本人が拒絶しては何にもなりませんから。

我が子達は周囲の皆に守られ、健やかに成長しています。今後、私は私なりの方法で恩返しをしていきたいと思えます。そして、子供達には「あなた達は家族だけではなく、たくさんの人に愛され、助けられて大きくなったんだよ」と伝え続け、感謝と喜びの気持ちを忘れずに大人になってほしいと思えます。

最後に、「独りじやない子育て」の環境に恵まれ、救われた私達のような家族が、もつともつと増えることを願ってやみません。

【受賞のことば】

「どうしても私の体験を伝えたい！」という思いから応募した「コンクール」で、このように素晴らしい賞を頂くことができ、本当に嬉しく思います。この受賞の喜びを胸に刻み、今後の自分の子育て、さらには地域での育児等の活動に励んでいきたいと思いません。

親父の勘違い

菅沼 孝治

【兵庫県】

娘が来月嫁ぐ。二人目であり、これですべて、独立するようになる。親としてやれやれだ。

「これで子育ても終わったな」

ふと漏らした一言に、横でクツキーを摘んでいた娘が、聞きとがめるように顔を覗き込んできた。

「子育てって。お父さん、何かしたん？」

「何って、お前。お風呂に入れたり、おしめを替えたりやろ」

「そんなん、してもらったことないよ」

「何を言うてんねん。赤ちゃん時代のことをお前は覚えてないだけや」

「いや。ほんまにしてもらったことない。みんなお母さんやった」

「うーむ」

確かに、いわゆる子育てというものを自慢できるほどしたかと問われると、多少、後ろめたい。仕事にかこつけ、妻に大半を委任してきたのも事実だ。それにしても……。

「全然してないことはないねんで。例えば……」

「お姉ちゃんをお風呂に入れてて、湯船に落としたんやろ」

そうだ。長女が二ヶ月くらいの頃、お風呂を任せられ、つい手が滑った。慌ててすくい上げようとしたが、気が動転してうまくいかない。その間、長女は湯の中でもがいていた。あれ以来、お風呂は入れさせてもらえなかつ



たような……。

「しかし、おしめは……」

「ウンチが指について、大騒ぎしたらしいやん。それもお姉ちゃんのときや」

そうだった。あの事件後、おしめの取り替えは苦手科目となった。

「けどなあ、海水浴や家族旅行は連れて行ったがな」

「いつも自分の行きたいところばかりやったね」

なるほど。言われてみればそうかもしれない。つまり、わたしは子育てにほとんど貢献してこなかったのか。初めて気づいた意外な事実だ。

目の前の湯飲みを取り上げ、口もとに持つてくる。中はカラッポだった。

「そんなに落ち込まなくてもええよ。こうして無事に育ったんやから」

そう言っ、お茶をつぎ足す娘に、うなずいて弱々しい微笑みを返した。

口に含んだお茶が、いつになくほろ苦い。

【受賞のこぼれ】

子育て失格親父の話にもかかわらず、賞を授けていただき誠に光栄です。貴ブロジェクトの権威が失墜しなければよろしいのですが、「子供を育てた」という事実は、周囲にあまり認知されていないのですが、「子供に育てられた」実感は多々あります。似たようなものでは。

そとむすこ
外息子

藤井 規子

【愛知県】

私には、一男一女のほかにも、もう一人の息子がいる。うち（内）の息子に対し、彼は外息子。息子の小学校以来の友人でもある。高校生のころ、息子が私を「規子さん」と呼ぶようになる、外息子までがそれを真似した。「規子さん、親に内緒のバイトをしたいから、制服を洗濯してくださいか？」——それから、放課後にやってくる彼に、アイロンを当てたアルバイト用制服を渡す日々が始まった。



そんなある日、苦手な国語が赤点だったと告げた彼。学業を疎かにするようでは、バイトの協力はできないと言うと、「追試で頑張る」と宣言し、しばらく姿を見せなくなつた。久し振りにやって来た彼は、満面の笑みで、壁に八十五点の国語の答案用紙をピンで止めた。それは、堂々のバイト許可証でもあった。

後になって彼が打ち明けたのは、親に反対されそうな学校に進学したいので、学費を作るためのアルバイトだという。さらには、勘当されたらここの家に下宿させてほしいと、悲壮感満載の告白。「ご両親と話し合つて、その結果を報告においで」と、思い込みだけで暴走している彼に、ストップをかけた。

その数日後、「親は、オレのことをちゃんと考えていてくれたから……」と、私は彼に洗濯係を解任されたのだつた。

こんなふうに外息子とは、冷静に向き合えるのだが、我が子となると、なかなか難しい。だから、我が息子が、

よその家庭の外息子になっていると知った時、肩の荷が少しばかり軽く感じられた。

息子は、アルバイト先のうどん屋さんで可愛がられ、家族の一員のようになっていた。ところが、高校三年の五月の連休明け、バイトをクビになったといつて帰ってきた。「これからは受験勉強に専念しなさい」と、おかみさんに言われたという。おかみさんにも三人の子どもさんがいて、たぶん親の気持ちになつて、ガツンと言つてくれたのだと思う。その言葉は、息子の胸に素直に落ちたようだった。私が言ったら感情的になつたに違いない、きつと反発しただろうと思うと、おかみさんの外息子になれたことに感謝した。

その後、息子は、県外の大学に進学した。帰省すると、真つ先に行くのがうどん屋さん。それは少し寂しい気もしたが、考えてみると、外息子も同じようなことをしていた。

就職活動中の外息子は、面接を受けた日に、自宅より先に我が家に寄つて、さんざん弱気な言葉を吐き出し、「ヨシッ！」と気合を入れて帰つていった。我が息子にとつて「ヨシッ！」の場所が、うどん屋さんだったのだ。

子どもだって、親に見せたくない姿がある。だからこそ、家以外に深呼吸をして、仕切り直しをする場所が必要なのだと思う。

現在は、社会人になった二人の息子たち。多くの立派な大人の外息子として、大きく成長していつてほしいと願っている。

【受賞のことは】

平凡な生活をしている私が唯一誇れることは子どもたちを気合いを込めて育て、無事社会に送り出したことです。そんな子育ての「コマを書いたら、大きなご褒美が届きました。いま思えば、ほんとうにスリリングで楽しい一大プロジェクトでした。

優 秀 賞

氏名	タイトル	都道府県
浅田 博子	私と赤ちゃんを育ててくれた生徒たちへ	愛知県
井澤 誠	「男の育児」 そのホン音	長野県
大石 千加	ママの一番大切なもの	大阪府
大野 淳子	支えてくれる人がいる それだけで安心してきた	東京都
奥村田布子	生まれてくれて、ありがとう	埼玉県
加藤 貴文	男もすなる育児休業	大阪府
菊池 英樹	親も子供になろう	福岡県
笹谷 豊子	悟るがや	京都府
鈴木久仁子	みんなの輪の中で育つ子どもたち	愛媛県
瀧本 文絵	親と成りて	滋賀県
田口 節子	四つの命を育んで	茨城県
恒石 英芽	ぼくもだっこして	高知県
土志田康子	じじばばの腕まくり	神奈川県
中本美千代	姉ちゃんのでっかい背中	和歌山県
野村 敏和	子育て・親育ち	京都府
古舘 康司	子どもの尻をふく	北海道
細越美由紀	ありがとう	岩手県
堀込 泰三	大切な時間	東京都
森本 摂子	パパが育児休暇を取得した	北海道
渡辺有加子	地域の力	兵庫県



表彰式の模様（エッセイ・コンクール）

NPO法人 ワニワニクラブの仲間達の会

【代表・吉田 淑恵】 北海道室蘭市

活動内容

ワニワニクラブは、月曜日から金曜日までの午前10時から午後2時まで開いています。現在、約160組の親子が登録しており、毎日20組程度、人数では40〜50人が集います。そのほか、バス遠足や運動会なども開催していますが、いずれも200人以上が参加する大きなイベントになります。



また、毎年一回「ぶらっとふれあい音楽会」を隣接するホールで開催していますが、これは地域からの支援を受け、近隣住民も参加できる音楽会として、定着した行事になっています。3歳以下の子ども連れでも参加できるので好評です。

活動の経緯・特徴

代表の吉田さんが、個人的に子育て支援を始めてから20年以上にわたって、一貫して子育て支援を行っています。営利を目的とせず、家庭で子育てをしている人への育児支援を行うことが活動の目的で、世代を問わずに社会性を養う場でもあると考えています。室蘭市輪西町で活



動しているので「ワニワニクラブ」と名乗っています。地元の輪西中核施設協同組合が、ワニワニクラブに利用してもらう目的で、行政の補助を得て建てた専用の施設で活動しています。

運営について

ワニワニクラブには登録ボランティアが40名いて、このボランティアスタッフで会の運営すべてを行っています。参加親子からの会費と賛助会員の会費で家賃や光熱水費などを賄っています。



【受賞のことば】

締切の3日前でした。推薦者と連絡がつき、大きな力に背中を押されて応募し、受賞のお知らせを受けた時も、信じられませんでした。開設7年目。さまざま乗り越えてきた仲間と、喜びを分かちあえる幸せ、かみしめています。ありがとうございました。



表彰式の模様

NPO法人 子育て支援センターちびっこはうす

【代表・宮沢 由佳】 山梨県甲府市

活動内容

スーパーマーケットの中で育児相談、育児情報の提供、親子遊び、無料託児を行います。これまでスーパーマーケット内のプレイルーム、育児相談はあったものの、育児相談、親子遊び、無料託児を1箇所で行うというのとは例がなく、特定の人が訪れることのない保育施設などではなく、スーパーという開かれた場所で、昔の子育て共同体を再現しているのが大きな特徴です。



活動の経緯・特徴

1991年に任意団体「ちびっこはうす」を設立、2002年にNPO法人化し、「子育て支援センターちびっこはうす」となりました。2006年から『まちかど子育て応援団』事業は、山梨県の募集する子育て支援事業のモデル事業としてはじまりました。このような活動は過去に例がなく、各地で高い評価を得て、今年度から県の事業として採択されました。基本的には未就学児を対象としており、学生や、通うすぐりのお年寄り



が子どもと一緒に遊ぶことができ、幅広い年齢層の交流の場ともなっています。

運営について

保育園や幼稚園などで勤務経験をもつスタッフを中心にシルバードランテアを含む20名のスタッフがおり、1箇所につき3〜5名のスタッフが活動しています。開催場所のスーパーマーケットからは、一定の料金をいただいています。



【受賞のことば】

受賞を知り、声を上げて泣きました。それほどうれしかったのです。厳しい子育て支援を17年続け、初めて社会に認められたと思えました。

この受賞を機に企業も地域も巻き込んで、新しい子育て支援スタイルを構築していきたいです。本当にありがとうございました。

こどもコミュニティケア

活動内容

自宅の一部を開放して小規模統合保育「ちっちゃな保育所」を運営しています。統合保育とは、医療ケアが必要な子どもや障害を持っている子どもも共に育ちあう保育のことで、感染予防と個別ケアの提供のために定員12名としています。月曜から土曜までの朝7時から夜8時半まで開所しており、夕食の提供や入浴など他にないサービスも提供しています。年間のべ約2,000人の利用があり、その内の1割は経管栄養・気管内吸引などの医療的ケアが必要な子ども、同じく1割は医療的観察などが必要な要観察児です。



活動の経緯・特徴

代表者が県立こども病院などの勤務で経験した、病児を持つ母親の大きな負担や、病院内で働く女医、看護師らが子育てと仕事を両立できない状況などを何とか支援できないか、と2004年から始めた事業です。看護師と保育士が病児も健常児も一緒



【代表・末永 美紀子】 兵庫県神戸市

に保育すること、一時保育から月ぎめまでフレキシブルな利用制度、家庭的な環境を提供し、保護者と一緒に個別の保育計画を立てること、の4点が大きな特徴です。

運営について

看護師であり保健師でもある代表者と看護師、保育士からなるスタッフが3名います。それぞれの私生活や研修なども大切に活動しています。

また、地域の子育て経験者や学生のボランティアの支援も得ています。



【受賞のこぼれ】

私たちの活動はどれも小さな規模ですが、「スタッフを含めたすべての人、一人一人を大切にすること」を合い言葉にやってきました。地道で、多様で少数のニーズに応える活動を評価してくださって、大変うれしく思っています。これからも「子どもが真ん中」の支援を、ていねいに行っていきたいと思っています。

京都文教大学「助け合いの子育てネット」

【代表・三林 真弓】 京都府宇治市

活動内容

募集したサポーターを、3歳未満のお子さんを抱える専業主婦の家庭に派遣します。基本的には自宅が近い同士でマッチングし、週に1回2時間程度の派遣となっています。母親からはもうちょっとしてほしいとの要望も時折ありますが、サポーターが週1回の訪問を長期的に続けるためには2時間が適当だと考えています。サポーターは子どもと遊んだり、母親からオムツの替え方などを教わったりしながら、育児について学んでいきます。母親はサポーターが子どもと遊んでいるそばで家事をしたり、サポーターに話し相手になってもらい、不安やストレスを解消しているのです。



活動の経緯・特徴

サポーターする側が子育て経験のない青年期の男女、サポートされる側が3歳未満の乳幼児とその母親となっています。一方的なサービス提供でなく、サポートする側は育児が体験でき、将来の育児における不安が緩和されるメリットがあります。



基本的にボランティア活動で、はじめに登録料500円と、交通費を折半する以外は無料です。

運営について

収益事業ではなく、あくまでもボランティア活動です。今年度、活動を支えるスタッフは13人です。ママさんサポーター活動しているペア（学生・母親）は25組です。



【受賞のことば】

今回は、夢ある賞をいただきありがとうございます。報告を受けた時は、「やったー！」と胸躍る気持ちでいっぱいでした。この5年間、ママさんサポーターに携わってくださったすべての皆様に感謝いたします。日本各地に、ママサポが広がりますように。

特定非営利活動法人とんだばやし国際交流協会

【代表・真嶋 克成】 大阪府富田林市

活動内容

協会では事業の1つとして、他団体と連携しながら、外国にルーツを持つ子どもたちのエンパワメントと仲間作りの支援を行っています。サマースクールでの学習サポート、「多言語進路ガイダンス」で子どもと保護者への進路相談、キャンプ、ハイキング、民博バスツアー、クリスマスなど年間を通じた子どもたちの交流活動が主な内容です。特にサマースクールは学校で子どもたちが自信を持って生き生きと過ごすために、文化や生活背景を理解する先生のサポートが重要なので、昨年度より教育委員会と協力して、新任教員研修としても位置づけられています。



活動の経緯・特徴

富田林にはさまざまな立場の外国にルーツを持つ人たちが住んでいます。相互理解を深め、差別や偏見をなくし、彼らが市民として堂々と暮らすことのできる多文化共生の地域社会を作ることが目的として活動しています。子どもたちは地域の未来です。外国にルーツを持つ子ども



もたちも夢を持って輝いてほしいと願っています。すぐに答えを求めるのではなく、子どもたちが大人になった時に、参加してよかったと思ってくれるような、長い目で見ることで活動にしたいと思います。

運営について

運営は、会費や行政の協力などによるとともに、事業ごとにさまざまな個人、団体の協力を得ながら行っています。詳しくはホームページを参照ください。

<http://www4.kon.ne.jp/~tloc/>



【受賞のこぼれ】

外国にルーツを持つ子どもたちへの取り組みが、子どもたち自身の「未来」とともに地域・社会の「未来」を築く一つの柱だと評価していただけたと受け止め、大変うれしく思っております。ありがとうございました。

特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた

【代表・野村 由賀里】 大阪府枚方市

活動内容

2005年9月に「食育ステーションまきの」を開設。子どもたちの健康と豊かな食生活を実現するために、子育てママのための食育料理教室と、2歳からの親子クッキングを実施しています。子どもの食事や栄養の勉強をしてから料理を作ること、母親は食に関する知識を身につけることができます。他にはヨガなどの保育付きカルチャー教室や、小学生の放課後居場所作りと食育を組合せた「キッズ・キッチン」が好評です。



活動の経緯・特徴

小学6年と4年の子どもがおり、子育ての悩みを抱える母親が増える中、自身の経験を生かして仲間が集まり子育て支援を行うことになりました。食の安全や栄養の偏りなどが問題視されており、子ども達に食べることの大切さを伝えようと、仲間と相談して食育をテーマにしました。



運営について

子育て支援は収入源として大きなものは期待できないため、別財源が必要だと考え、パン作り講師の経験を生かし、1階を市内で唯一の米粉（こめこ）パン屋としてオープンし、その売上げを子育て支援に回すことにしました。食育のスタッフは管理栄養士や保育士で、現在は有償ボランティアという形で運営をお願いしています。また、それまでは年齢層が高い買物客でしたが、若い主婦が買い物をするようになり以前に比べると商店街が活気を取り戻してきたと言えます。



【受賞のことは】

このたびは未来賞を授与していただきましてありがとうございます。大変うれしく、また光栄に思っております。今回の受賞で私たちの目標にまたひとつ近づくことができ、実現に向けてスタッフ一丸となり頑張ります。地域の子どもたちが笑顔で健やかに育つようにこれからもお母さんをサポートしていきます。

女性研究者
への支援



表彰式の様相（女性研究者への支援）

麻生 典子 [日本女子大学大学院人間社会研究科]

研究テーマ ● 乳児に対する母親のネガティブタッチ評定尺度作成の試み

Ⅱ 児童虐待予防の観点からⅡ

授乳時の「くすぐり」など子どもの欲求にそぐわないタッチと母親の精神的健康との関連を検討します。ネガティブなタッチングの尺度化により、潜在的児童虐待のスクリーニングを早期に行い、子育てに悩む母親への支援を充実させていきたいと考えています。



【受賞のことば】

このたびは、私どもを「スミセイ女性研究者支援」の対象者に選んでいただき誠にありがとうございました。これまでの育児と研究の両立経験と今後の研究への期待が、このような評価に結びついたと大変光栄に思っております。

井上 のぞみ [東京大学大学院総合文化研究科]

研究テーマ ● ジャン・ジャック・ルソーの思想におけるヒロイズムの概念

この研究は、ルソーのヒロイズム論を歴史的文脈の中でとらえ直す作業を通して、十八世紀フランスにおけるヒロイズム概念の転換と発展の軌跡をたどる試みです。

また、政治的主体性を持つ能動的市民の誕生が準備された思想的文脈を文学研究の側から明らかにすることも目指しています。



【受賞のことば】

私は結婚後単身で留学し、帰国後は3人の子どもに恵まれました。家庭と研究の間で葛藤し、両立に自信をなくすことも度々ありました。けれども今は、家族がいるからこそ研究を続けたいし、続けられるのだと思えるようになりました。このたびの受賞は大きな励みとなり、本当に感謝しています。よい結果を出せるように頑張ります。

小野 史 [東京大学大学院農学生命科学研究科]

研究テーマ ● 「飽食」下における現代的「飢餓」進行要因の究明

『経済的・文化的要素の交差としての食生活』



「食料消費構造の規定要因の析出と日本の特質の解明」をテーマに研究しています。その一環として、今回申請している研究題目を考えています。各種統計の分析を基礎に、食の現場への聞き取り調査を行い、考察を深めます。独自に設計したアンケート調査を行うことも考えています。

【受賞のことば】

このたびは助成対象者に選んでいただきありがとうございます。まだ学生で研究者としては未熟ですが、「可能性」に手を差し伸べていただいたと受け止めております。この助成を力にして、研究者としてひとり立ちできるよう、しっかりと前に進んでいく所存です。

東海林 亜矢子 [お茶の水女子大学大学院人間文化研究科]

研究テーマ ● 場からみる日本古代王権と后

奈良・平安時代の後の研究により、当時の女性が政治に主体的に関与し、それが王権や社会を安定させるシステムとして機能していた事実を明らかにしたいと考えています。通史的な解釈を排除することと、「昔からこうだった」というような女性に対する画一的な先入観を取り去ってほしいと思います。



【受賞のことば】

0歳と5歳の子どもがいる上、夫の転勤のため研究拠点の東京を離れた私にとりまして、研究を続けていくことは時間的にも金銭的にもかなり困難ではありますが、今回の受賞を支えに頑張ろうと思えます。ありがとうございました。

「未来を築く子育てプロジェクト」表彰式・懇親会

2008年2月18日(月) 於：ホテルニューオータニ



受賞者と実行委員の記念写真

「未来を築く子育てプロジェクト」の表彰式が、2008年2月18日(月)、東京のホテルニューオータニで行われました。お子さんも一緒に参加した、ユニークで楽しい表彰式でした。

表彰式には上川陽子内閣府特命担当大臣（少子化担当、男女共同参画担当）にご臨席いただき、ご挨拶いただきました。

また、「エッセイ・コンクール」および「子育て支援活動の表彰」では、厚生労働省大臣官房審議官雇用均等・児童家庭局担当の村木厚子審議官から厚生労働大臣賞が授与されました。



佐藤義雄住友生命保険相互会社
取締役社長の祝辞



村木審議官のご挨拶



受賞者のお子さんを抱く上川大臣



司会の木佐彩子さん



堀田力実行委員長のご挨拶



厚生労働大臣賞受賞者らを囲んで



「エッセイ・コンクール」
厚生労働大臣賞・最優秀賞
の中村佑美さん



「子育て支援活動の表彰」
厚生労働大臣賞・未来大賞
のワニワニクラブの仲間達の会



「女性研究者への支援」
を代表してご挨拶される
小野史さん



会場近くには託児ルームを開設



お子さんと一緒に表彰式

【懇親会】

表彰式後、懇親会が開かれ、受賞者や実行委員がたのしく歓談。
お子さん向けのメニューもあって、賑やかで和やかな会でした。

